陸西遊行囊抄

一下

和書門
類
二九四五三號
二三一函
一二架
五一冊

内閣文庫
和
書
類
二九四五三號
五一冊
二七九函
二一架

地七四ノ五

内二一〇八六號

内閣文庫
番號 和 29453
冊數 51 (15)
函號 177 1134

国立公文書館
National Archives of Japan

一之下 三十二
自四塚経鳥羽到于淀
陸西路徴發抄

内一一〇八一號

国立公文書館
National Archives of Japan

陸 西遊行嚢抄 一之下

自京鳥羽通淀城下ニ出ル順次ニ

自三條ヨリ寺町通ニ出松原通ヲ過大宮通ヘ

出東寺塔ヲ右ニ見テ四塚ノ方ヘ赴ク

東寺

金光明四天王教主護国寺 世所謂東寺アリ山ヲ号ニ秘密

傳法弥勒山ト院ヲ号普賢捴院ト古ヘ此処ノ東西ニ大道

場アリ東ヲ称東寺西ヲ称西寺是南都ノ東大寺西

大寺ノ如シ各寺号アリトゾ凡真言ノ三部秘経ノ中

ニ此寺ハ金剛頂経之道場トス而専金剛界之理金

剛頂経或号ニ教王経ニ故ニ号ニ教王護国寺弘仁十四年正

月勅シテ以ニ此寺ニ弘法大師ニ賜フ建ニ灌頂院空海居ノ

青竜寺之法式ニ准ノ毎歳二序灌頂ノ事ヲ行フ
乃置恵果所附ノ健陀國ノ袈裟及ヒ念珠ヲ置テ
為ニ寺鎮ト承和ニ年三月廿一日大師於ニ金剛峯寺ニ
結跏趺座シテ毘盧印ヲ作テ泊然トシテ入定ノ入ニ今ニ
至テ此日仁和寺并ニ此外ノ寺院ニモ大師ノ像ヲ安ス
所ニテハ修ニ法事ヲ是ヲ御影供ト称ス 寺領二千三
十石坊舎廿一宇也凡此寺至ニ中世ニ無ニ各院ニ寺僧
住ニ長寮ニ是ヲ僧坊作ト云古ノ寺院多クハ皆然リ
此寺一旦衰頽ノ事アリ中興願行是ヲ再興ス始
先建ニ宝菩提院ヲ住之自レ是各別院ヲ建之
此地始為鴻胪館後ニ為レ寺唐橋今在ニ寺ノ西ニ古ヘ蕃
客来朝ノ時経ニ此橋ヲ鴻胪館ニ入故俗ニ唐橋ト云
或ハ蕃客ヲ河陽ニ迎ルノ事アリ河陽トハ今ノ山崎

職員令曰玄蕃寮蕃客辞見讌饗送迎及在京夷狄
监當館舎事 謂鴻胪館也
或書曰鴻胪館ハ玄蕃寮ニアリ 仍寮頭ヲ鴻胪卿ト号ス
玄ハ遠ナリ蕃ハ藩也遠藩ヨリ来朝ノ客ニ接スル所
ナリ古来此所ニテ勧客ニ餞スル詩句多シ漢朝鴻胪
寺又此義也此館ハ延暦迁都ノ始東西ノ大宮ニコレ
ヲ置ル然ルニ弘仁ニ東ノ鴻胪館ヲ以テ東寺トシテ
弘法大師ニ賜レ之西ノ鴻胪館ヲ以テ西寺トシテ修同[守敏]僧
都ニ賜フ其後七条朱雀ニ鴻胪館ヲ立テ三韓ノ官舎
ヲ其中ニ置ト云 今ノ四塚辺ト云云
又或書ニ曰玄蕃寮ヲハ法師マラトノ司ト讀メソ玄ハ
僧ハ蕃ハ客也僧尼ト云モノヲ昔百濟國ヨリ来朝セ
シ故ニ同ク此寮ヲハ司ルナリ又胪トハ腹ノ前ヲ胪

ト云鴻ノ鳴特声ヲ出ス所也故ニ鴻胪ハ声ヲ傳フルト
云心也異国人来朝ノトキハ通事ト云司アリテ両国
ノ心ヲ傳フル也又鴻雁ハ異国ノ鳥ナリ異國ノ音ヲ
傳フルト云義也又玄蕃寮ヲ法師賓人ノ司ト云叓ハ
異國人ハ僧尼始テ来朝スル故ニ云也
延喜八年ノ夏後江相公朝綱鴻胪舘ニテ蕃客ヲ
送ル時ノ詩ニ曰ク

前途程遠馳思於雁山之暮雲
後會期遥霑纓於鴻胪之曉露ニ

此時蕃涙ヲ落シテ感レ之後數年ヲ經テ此朝ノ
人ニ逢テ問テ云朝綱三公ノ位ニ到ルヤ答テ日
未シ謫海ノ人ノ云日本國ハ賢才ヲ用ル国ニ非スト
云コトヲシレリトヲ云

羅城門東寺ノ塔ノ辺ノ田中ニ旧跡アリ

府志曰

世ニ誤テ多クハ東寺ノ南門ト云是則九重ノ城闕ノ南門
也今田間ニ其地アリ羅城門ノ毘沙門天ノ像ハ今東寺ノ
観音堂ノ中ニアリ相傳フ古ヘ王城ノ南羅城閣上ニ置所ノ
佛像ナリ

同書曰羅城門ハ平安城ノ南門也東寺ノ西千本通ノ南
九條通リ南面ノ田間ニ有其跡柱礎今在地中六尺許下ニ今
東寺中ノ観音堂ニ八臂ノ毘沙門天ノ像アリ寺僧是ヲ
羅城門ノ木尊ト云古ヘ羅門ノ上ニ置所ノ佛像ナリ桉ルニ
君帝ノ時屢ミ西蕃之冦アリ僧不空ヲシテコレヲ壓シ
ム西蕃呆ノ敗走ス不空拳シテ曰予元ヨリ無ニ別法
一向ニ毘沙門天ヲ念ス依之神兵出現シヲ而敗之者也

ト自是後城樓ノ上ニ安スル毘沙門天ノ像ヲ云然ル則ハ傳
教大師之徒モ亦倣之然ルヲ亦後羅城門絶ル日本尊毘沙
門天ノ像ハ移ニ近隣東寺ノ中ニ者乎
昔日桓武天皇自リ長岡ノ邑又欲遷都ヲ於今ノ平安城ニ經營ニ宮
殿ヲ故時々行幸シテ視之ヲ于時ニ羅門衛クル門前ニ御輿ヲ
留玉ヒ詔シテ曰今蓋尾壁墻經営既ニ成ル然共斯地勢郊外
風烈于處也持ニ独立ノ門至テ高則ハ恐クハ倒仆ノ患
アランカ毎ニ柱根ニ須ク伐ル一尺門卑則凡又不侵ヲ工匠心ニ
謂ラク搆門ヲ甚タ堅固ナリ何ソ有ン風難哉然ル王事
靡ナシ盬モロキコト命ニ應シテ而竊ニ半ハ截ル五寸ヲ再幸ノ日又詔シテ而曰始
伐ニ一尺ヲ則可ナリ也今視之則未シ也又寸又須伐之工匠大驚キ
懼ル天眼之不ルヲ掩直ニ告之帝曰遷都日近シ然則ハ須被期他
日ヲ而事止ヌ矣遷都之後三度顛倒ス

毎度則改造之ヲ圓融院ノ時ニ又仆亦後不改作之ヲ著聞
集ニ載羅城門上有女盗
昔都良香此門ノ辺ヲ過ル時ニ氣霽風梳新柳髮
ト云詩ノ一句ヲ作テ吟嘯シテ後句ヲ案ル然ルニ
イツク共不知氷消浪洗旧苔鬚ト云後句ヲツク
是羅城門ニ住メル所ノ鬼神ノ所為トゝ後日ニ良香
此両句ヲ吾カ作トテ菅相丞ニ語ル菅家ノ御ニ曰ク
此後句ハ人間ノ作ニアラストト 豈フ良香始テ菅丞相ノ
神ニ通シ給ト云叓ヲ知トゝ

西福寺　在二東寺ノ慶賀門東一
傳テ云是ハ自然居士説法之場ナリ今ハ淨土宗ノ寺也

西寺　有東寺之西

一説當寺始西明寺ト号スト守敏ノ所住ナリ曽テ天長元年ニ大ニ旱リス其春三月空海ニ勅シテ神泉苑ニ於テ請雨經ノ法ヲ修ス時ニ守敏法師奏曰ク守敏世壽法臘共ニ邁タリ于海ニ先兼詔為適宜ニ依之敏ニ詔シテ敏七日ヲ以テ為朝散朝陰雲厚ク布テ都下暗キコト如夜雷鳴雨灑テ挙レ朝感異勅メ両ノ霑スル所ヲ見ルニ只東西ノ京ノミ於是又空海ニ詔ス十時霖沛五日天下皆洽レ以是ヲ

觀之則ハ弘法トサシキ優劣アリトイヘ共世ニ一雙
ト称ス亦不爲不可然レ共守敏ノ傳諸書ニ不
見如何ソヤ今西寺ノ跡悉ク田疇トナリ金堂
講堂悉ク田園ノ歸トナル守敏塚終ニ一堆存スル
而已以今觀之則弘法ト守敏ト其跡ノ相去ヿ
天淵遼夐也 右府志

私ニ曰弘法ト守敏ト互ニ調伏ノ事世ノ知ル所
ナリ

酴醾田 東寺ノ西北ニアリ今東寺ノ役人ノ住
スル所ナリ
此所ハ昔此所ニ門脇中納言平教盛卿ノ宅地ノ由云
傳フ

足利家譜曰嘉慶六年十一月前大樹義満自督テ諸軍ニ到リテ東寺ニ進テ陣ス八幡ニ使管領畠山基國前官領斯波義將細川頼元ヲ赴泉州ニ

是ハ大内義弘カ泉州ニテ将軍家ニ反テ攻ラレシトキ也

四塚

追分 四塚ニアリ題目石ヲ立此石ヲ左ニシテ右ノ巻ニ入ハ西ノ邑ヲ経テ摂州ヘ行路ナリ題目石ヲ右ニ〆左ノ巻ニ入ルハ鳥羽通淀城下ノ路也

桂川 是ハ西ノ邑通リ摂州路ナリ此道ノ丁別巻ニ記之

吉祥院 四塚ノ追分ヨリ鳥羽ニ赴ク路ヨリ右ノ方松杜ノ中ニ見ユル

府志曰菅原清公之所建也清公遣唐大使トシテ洋中ニシテ大風頻リニ吹テ将覆舟于時三井ノ智證求法ノ為ニ入唐舟中ニアリ相共ニ吉祥天女ニ祈ルニ于時風止舩無恙而帰朝ス時ニ智證造天女ノ像清公置之於宅地ニ今此吉祥院ノ地也

自請公以下菅家傳領ノ地トナル菅神五十八賀ノ
於此院被修之筑紫貶謫ノ時モ自此院首途シテ
於古河ニ乗船ト云々
或又柿本ノ紀僧正跡ト云僧正元此所ニ栖ト云々

吉祥天女社

吉祥院ノ中ニアリ

旧塁　吉祥院　西北西ノ邑ノ住吉祥興市ト云者
細川時國ノ命ヲウケテ此城ヲ守ルト云々

上鳥羽村

町アリ

地蔵堂　自通町右ノ方山崎路ノ方ニアリ
里俗是ヲ矢負ノ地蔵ト云　古老傳云　昔西寺ノ守敏
弘法大師ヲ妬テ竊ニ人ヲ伏テ弘法大師ノ出ルヲ
瞰ヒ令射之于時ニ此地蔵其間ニ現シテ弘法大師ニ
代テ彼射ル所ノ矢ヲ背ニ負フ其瘢痕今ニ地蔵
ノ背ニアリ

實相寺　在上鳥羽村

當寺ハ日蓮宗大覺僧正之開基也今ハ妙覚寺ニ屬ス

鯉塚　上鳥羽ノ内自路左ニ石碑アリ里俗ハ

是ヲ戀塚トイヘ共戀塚ハ下鳥ニ在

府志曰上鳥羽ニ戀塚ノ碑ヲ立ツ上鳥羽ニアルハ鯉塚ナリ古往ニ上鳥羽ノ池中ニ大鯉魚アリテ時々妖怪ヲナス土人殺之為ニ塚ヲ築ク是鯉塚ナリ

作道　上鳥羽ト下鳥羽トノ間ノ路ヲ云ト

府志曰自上鳥羽至下鳥羽之間是ヲ造道ト云傳言フ元良親王新年ノ拜賀之音鳥羽ノ造路ニ聞フト吏部王ノ記ニ見エト云々然則ハ造路ノ称号既ニ旧シ矣然共

不レ詳誰某闢ニ此路ヲ

小井田村

小井田橋　長廿間　此川ハ鴨川ノ末ナリ
或ハ角倉川共云

城南神社　自路左ニアリ是ハ鳥羽院ノ霊社也
此地當ニ平安城南ニ故ニ城南ノ神ト云

田中ノ御所　城南ノ神辺ニアリ是則鳥羽ノ
法皇ノ離宮ノ旧跡也ニテ今水石ノ
跡残レリ是鳥羽院ト云白河法皇ノ御宇也應徳三年
造立号城南離宮

玉葉
津の[illegible]　読人不知

金葉
[illegible]池上花といふ事を[illegible]
池水のそこさへにほふ花ざくら見るともあかじ千代の春まで　堀河
鳥羽殿[illegible]
[illegible]
寛治二年八月十五夜鳥羽殿にて池上翫月といふ事を[illegible]
池水にこよひの月をうつしもて心のままにわがものとみる　院御製
鳥羽殿にて[illegible]
[illegible]　大江

詞花
[illegible]
白河院鳥羽殿にて前栽合[illegible]
[illegible]
鳥羽殿[illegible]
[illegible]

千載
咲しより散はつるまて見しほとに花のもとにて廿日へにけり　関白

そこゐなき池の汀の桜花うつれる浪の花こそさかりなりけれ　池上花

池の汀の桜ちりしけは浪の花こそさかりなりけれ　[illegible]

常よりもちりまかひける池水の汀の桜かけも見えけり

堀河院御時百首歌めしける時池上花といふことをよませ給ける

ちりまかふ池の汀の桜影うつしてこそ見れ

皇太后宮大夫俊成

[illegible]

神代よりかはらぬ春のしるしとて桜かさしにしつゝ

宮中桜といふ事を

八十の春かさねて又ことしも桜の花をみつるかな　俊成

花の色にそみし心のうつりてはちるを見つゝもおしまるゝかな

新古今

宮人の袖ふれし梅のにほひこそ花のたよりに風ぞしらする　太上天皇

山里の稲葉の風に秋のきて月の夜寒に衣うつなり　中務大輔忠

大江山こえていくのゝ月のかけやとる雲井の露ふかきかな　大僧正慈円

浦ちかくふりくる雪は白浪の末の松山こすかとそみる　後鳥羽院

新勅撰

沖つ風ふきにけらしな住吉の松のしつえをあらふしら浪　[illegible]

花の色にそめし袂の惜けれは衣かへうき今日にもあるかな　後京極摂政

続後撰

はかなくも人を待つの夜はの月にまたれてあかす有明の空　前内大臣

続古今

ちらぬまに見はやと思ふ桜花こゝろのまゝに散るをみるかな　中務卿親王

置くつゆのしもとなるまでしらずして秋の夜の月　太上天皇

恋ひつつ猶
いつしかと露やおくらん稲葉にてかりほすまでの山田をぞ思ふ　元真

　岩のうへの花のかほりは尋ぬれど[illegible]

やとりしつゝ[illegible]もる山田の庵の秋のねざめに　宗家

新続拾　夕されば[illegible]稲葉[illegible]もる山田の[illegible]の秋風　四条家衡

続千載　みつしほの[illegible]山田の秋風に[illegible]　治部卿実方

続拾遺　門田[illegible]守る山田の[illegible]やらん　津守国夏

　夜もすがら山田の[illegible]秋の山風　後光

風雅　わがやどは[illegible]秋の[illegible]月の[illegible]　前大納言俊経

夕ぐれの[illegible]守る山田の[illegible]の秋の夕暮　為明

夜寒に守る山田の庵の秋風に[illegible]稲葉[illegible]　前大納言為世

露をおもみ[illegible]いなばの[illegible]もる[illegible]　大江親世

新拾遺　夜もすがら[illegible]守る山田の[illegible]　藤原宗家

かりほす[illegible]守る[illegible]　信実

明けぬとて[illegible]もる山田の[illegible]秋の山風　従三位[illegible]

新千載　白露の[illegible]　源義種

夕日さす秋の[illegible]守る山田の稲葉[illegible]　前大納言[illegible]

此集　あらしふく秋とはかねてしらすとも小山田のいほの露ふかきかな　法印[illegible]

〃　ぬれつゝやよそに行人露ふかき小山田のいほのとまりもとめむ　〃

寄雲　あきつゆにかりほの庵のおとろきて小山田の雲のかゝるかり[illegible]　[illegible]

〃　あきたちて小山田の庵にねさめしてあはれにしのふ秋の夕暮　[illegible]

擣衣　風のをと小山田のいほもしきりにて衣うつなり秋やさむけき　[illegible]

擣衣恋　[illegible]小山田の庵にひとりねて[illegible]ゆく人をまつ　[illegible]

寄露　[illegible]としてしらつゆふかき小山田にうたゝねしつゝ秋風そふく　[illegible]

新居　いほりさす小山田にしもかりそめの庵やたれかすみそめし[illegible]　[illegible]

立秋　[illegible]ならぬ秋の小山田のほのかにきのふ[illegible]ゆく　[illegible]

〃　いほりせし小山田にしてあきかせのつゆにそ袖は[illegible]ぬる　[illegible]

〃　白露の小山田に庵[illegible]のさむしろにおきゐてそ[illegible]　[illegible]

〃　秋風[illegible]なかはいほりする小山田のもとはかれ[illegible]　[illegible]

〃　[illegible]ふかき小山田の庵[illegible]　[illegible]

〃　もみちはのちりしくいほの小山田にかりそめなからかよふ秋かな　[illegible]

治承三年十二月廿日院御所七條殿ニ軍兵如雲霞馳集テ四面ヲ打圍ニ三萬騎モヤ有ランドゾ見エケル御所中ニ候合タル公卿殿上人上下北面女房達ニハ何事ゾトアキレ迷ケリ昔惡右衛門督信頼卿三條殿ヲ仕タリシ様ニ御所ニ火ヲ懸テ人ヲモ皆可燒殺ナン云者モ有ケレハ局々ノ女房女童部マテ喚叫カチハダシニテ物ヲタニモ打カヅカズ迷出テ倒レフタメキテ騒合リ理也法皇ハ日比ノ有様事ノ體御心得ヌ事ナレ共流石忽ニ懸ベシトハ思召ヨラサリケルニヤノアタリ心憂事ヲ叡覧アリケレバ只アキレテゾ渡ラセ給ケル御車寄ニハ前右大將宗盛卿参給ハリ法皇ノ御ニハコハ何事ゾ遠國ヘモ遷シ人ナキ嶋ニモ放ツベキニヤ左程ノ

罪有コトソ思メサ子主上サテ御座セバ世務ニ口入ス
ル事計ニテコソアレ其事不可然向後ハ天下ノ事ニイ
ロハデコソアラヌ汝サテアレハ思放ツ事ハヨモアラ
ジトコソ思召セ其ニイカニカク心憂目ヲハ見スルソ
ト仰ラレモアヘズ龍眼ヨリ御涙ヲハラ〳〵ト流サセ給
ケリ大將モ見進セテハ涙ヲ流被申ケル人猜モノ御事
ハ爭有ヘキ世間鎮ランマデ暫ク鳥羽殿ヘ移シ進セシ
トソ入道ハ申侍ツルト被申ケレバ左右モ計ニコソ
ト仰モハテサセ給ハヌニ御車ヲ猜ヨセテ大將聽テ御
車寄ニ候ハレケリ御經箱討ゾ御車ニハ入サセ給ケル
御供ヲモ仕レカシト御氣色ノ見エケレバ宗盛卿心苦
ク思進テ御供候テ見置進タクハ思給ヒケレドモ入道

イカバ宣ハンスント恐サニ涙ヲ押ヘテ留リ給フ公卿
殿上人ノ供奉スル一人モナシ北面ノ下臈ニ三人ゾ候
ケル御力者ニ金行法師ハ君ハイヅクヘ御幸有テ何ト
ナラセ給ヤラントテ御車ノ後ニ下臈ナレバカキマギ
レテ泣〳〵ゾ參ケル其外ノ人々ハ七條殿ヨリチリ〳〵ニ
皆歸ニケリ御車ノ前後左右ニハ軍兵イクラト云數ヲ
不レ知打圍テ七條殿ヲ西ヘ朱雀ヲ下ニ渡ラセ給ケレハ
上下貴賤ノ男女迄モ法皇ノ流サレ御座ト割リ見進ケ
レハ御供ノ兵マテモ涙ヲゾ流シケル鳥羽ノ北殿ヘ入
進セケリ平家ノ侍ニ肥前守泰綱奉テ奉守護御所ニハ
然ベキ者一人モ候ハズ右衛門佐ト申ケル女房ノ尼ニ
成テ尼御前ヲバ畧ノ尼ゼト申ケル計ゾ免サレテ候ケ

ル唯叓ノ心地メヅ御座ケル供御進タリケレ共御覧ジ
入ル、御事ナシ不盡ケルハ唯御訣討也門ノ内外ニハ
武士充満ノ所モナシ國々ヨリ駈上セタル夷共ナレバ
争カ御覧ジ知セ給ベキツヘサマシケナル顔氣色ウト
マシケナル事様也大膳大夫業忠其時ハ兵衛尉トテ十
六ニ成ケルヲ召レテ朕ハ今夜失ハレヌト覺ル也最後
ノ御所作ノ料ニ御湯召サレタキハ叶ハジヤ水ナトハ
浚シク思召ニト仰ケレバ業忠今朝ヨリハ肝塊モ身ニ
添ハス只音魂討ニテ有ケルニ此仰ヲ奉テイトヾ絶入
心地ノ物モ覺エズ悲カリケレ共待衣ノ玉襷上テ水ヲ
波タレドモ薪モナシ緣ノ束柱ヲ放集テタキ物トシテ
御湯搆出メ進タリケレハ御湯懸召テ泣々御行始リテ

後ハ終夜法華經ヲソ遊シケル最後ノ御勤ト思召ケレ
バニヤ例ヨリモ殊ニ物悲クテ鈴ノ響モ耳ニ透リ讀經
ノ御音モ肝ニ銘スニ聖ニ天十羅刹女モ十三大會菩薩
聖衆モイカニ哀ト覺シケシ今夜別ノ御事ナクテ明ニ
ケリ去七日ノ大地震係ル淺増キ事ノ有ヘクテ十六洛
叉ノ底迄モ荅ツヽ堅牢地祇龍神八部モ驚騒給ケルニ
コソト覺エタレ陰陽頭泰親ガ馳參テ泣々奏聞シケル
モ今コソ被思知ケレ彼泰親ハ晴明六代ノ跡ヲ傳テ天
文ノ淵源ヲ盡シ古文ノ秘樞ヲ極メタリ推條ハ掌ヲサ
スガ如ク卜(ボク)筮ハ眼ニ見ニ似タリ一事モ違事ナケレバ
異名ニハ指神子トゾ云ケルサレハ雷落懸タリケレト
モ少モ恙ナカリケリ十二神將ヲモ進退シ三十六禽ヲ

モ相従ケリイカ様ニモ正身ノ神歟佛歟非ニ直人ニトゾ申
ケル

主上ハ臣下ノカク成ヲタニモ不便ノ事ニ歎キ思食ケ
ル二法皇ノ御事聞召テハ不斜御歎キ有テ何事モオホ
シ召入ズ御有様ニテ日ヲ經ツヽハカ〳〵シク貢御モ進
ス打解御寢モナラハ御心地惱シトテ常ハ夜ノオトヾ
ニ入セ御座ケレハ后宮ヲ始進セラ近ク候ハレケル女
房達モ心苦ク見進ケル内ヨリ鳥羽殿ヘ御書アリ世モ
カクナリ君モ在様ニ御座シ上ハ位ニ候テモ何ニカハ
仕ヘキ花山法皇ノ御座ケン様ニ國ヲ捨家ヲ出テ山々
寺々ヲモ修行セント思食トマデ申サセ給タリケレハ
法皇我御身ハ君ノサテ御座ヲコソ憑ニテ候ヘサヤウ
ニ思召立ナン後ハ何ノ憑カハ侍ベキ左モ右モ此身ノ
ナラン様ヲ御覧シ終サセ給ヘト様々ノ御返事有ケレ

ハイトヾ御歎ノ色深シテ御書ヲ龍顔ニアテサセ御座
メ御涙ニ咽セ給ケルゾ悲キ太政入道ハ天下ノ小事一
筋ニ思ノ御討ニ有ヘシトテ福原ヘ下向アリ宗盛此由
ヲ被奏聞思召レケルハ主上聟也天下ヲ我儘ニセント
ヤ法皇ノ御讓ヲエタル御世ニモ非ス縦サリトテモ法
皇鳥羽殿ニ御心憂御形勢ニ御座ス何ノサミ有テカ世
事ヲ可聞召入我御心ニ任スル世ナラバ法皇ヲヾ打籠
進セサラシト被思召ケルニヤイカニモ宗盛可相討又
關白ニ申セトゾ仰ハ有ケル只明テモ暮テモ法皇ノ御
事ヲノミ歎思食テ世事ハツユ御討ヒナカリケリ去廿
日法皇鳥羽殿ヘ移ラセ給ト聞食シ後ハ御神事トテ夜
ノ夂ヲトヾヘ入セ給ヒ毎夜ニ石灰ノ壇ニテ大神宮ヲゾ
拜シ奉ラセ給ケル法皇ノ御事ヲ祈申サセ給ケルニコ
ソ同父子ノ御間ナレドモ殊ニ御志深カリケルコソ哀
テレ見進セケル余所ノ袂モ乾ク間ソナカリケル百行
ノ中ニハ孝行ヲ先トシ萬行ノ間ニハ孝養勝タリ如來
萬德ノ尊孝ヲ以テ正覺ヲ成明王一天ノ主孝ヲ以テ國
土ヲ洽ドイヘリ去ハ唐堯ハ衰老ノ母ヲ貴虞舜ハ傾ナ
ル父ヲ敬ヘリ延喜ノ聖主ハ我朝ノ賢帝ニ御座ケレト
モ北野天神ノ御事ニ依テ寛平法皇ノ旨御給テ惡道ニ
入セ給ケリ二條院モ賢王ニテ御座ケレ共天子ニ父母
ナシトテ常ニ法皇ノ旨御申サセ給ケル故ニヤ繼體ノ
君マテモ御座サス先立セ給御ユツリヲ受サセ給タリ
シ六條院モ御在位僅ニ三箇年五歳ニテ御位ヲ退セ給

ヒ太上天皇ノ尊號アリシカ共未御元服モナカリシニ
御年十三ニテ安元二年七月廿七日ニ隠サセ給ニキ哀
也シ御事也鳥羽殿ニハ月日ノ重ニ付テモ御歎ハ淺カ
ラズ折々ノ御遊所々ノ御幸御賀ノ儀式ノ目出カリシ
今様朗詠ノ與アリシ事扇合繪合マテモ忘ルヽ御隙ナ
ク只今ノ様ニソ被思召出ケル自餘ヨル人モナシ理也
法皇モ恐思食テ召レズ大相國モ免シ給ハザリケレハ
ナリ唯秋山ノ嵐烈ク軒ハヲツタウ友トナリ古宮ノ月
サヤケクシテ淡ク露ニ影ヲ宿ス夜深ノハ枕ニ通砧ノ
聲御寢ノ夢ヲ覺シ曉カケテハ氷ヲ碾事ノ音老牛心ヲ
傷シム御眼ニ遮ル物トテハ昇セ煩フ箱ノ火敵慮ニカ
ヽル事トヲイツマテ旅ノ棲ヒ白雪庭ヲ埋トモ道ヲ掃

人モナク結氷モ池ヲ閉テ群居鳥タニ見ヘサリケリ大宮
大相國伊通三條内大臣公教葉室大納言光頼中山中納
言顯時ナド申シ人々モ被失ニキ古人トラハ民部卿親
範宰相成頼左大辨宰相俊經ナントノ御座セシモ此代
ノ成行有様ヲ見給テ左モ右モ有ナン大中納言ニ成タ
リトモ只夢ナルヘシトテ未四十ニタニモ成給ハザリ
ケル人々ノ忽ニ世ヲ遁レ家ヲ出テ親範ハ大原ノ霞ニ
跡ヲ隠シ成頼ハ高野ノ雲ニ身ヲ交ヘ俊經ハ仁和寺ノ
閑居ヲシツラヒテ偏ニ後世菩提ヲコソ被祈ケレ漢四
皓ハ南山ノ洞ニ往晉七賢ハ竹林ノ庵ニ隠首陽山ニ蕨
ヲ採頴川ノ水ニ耳ヲ洗シ人モ有ケル也マシテ此世ニ
ハ心アラン者一日モ跡ヲ留ムベキニアラサリケリ中

国立公文書館
National Archives of Japan

ニモ宰相入道成頼此事共ヲ傳ヘ聞給テハ哀ウレシク
モ心トク世ヲ遁タルモノ哉角テ聞モ同事ナレトモ世
ニ立交テマノアタリ見マシカバイカハカリカ心憂カ
ナマシ保元平治ノ亂ヲコソ淺猿ト思ヒシニ世ノ末ニ
ナレハニヤ彌増彌増ニ成行タリ此後又如何アランズ
ラン雲ヲ分テモ上地ヲ掘テモ入ヌヘクコソ覺ユレト
ゾ宣ケル賢モ思切給ヘル人々也ト吋ヌ身ニモ申ケリ
治承四年正月元三ノ間モ鳥羽殿ニハ參奇人モナシ藤
中納言成範左京大夫修範是二人ゾ被免候ケル年去年
來レ共クツロカセ給御事モナシ篭ノツラヽノ心地メ
閉籠ラレサセ給タルゾ哀シキ廿日春宮ノ御袴着御マ
ナ始可聞召トテ花ヤカナル御事共世間ニハ訇リヒツ

メキケレ共法皇ハ御耳ノヨソニゾ被聞召ケル

靜憲法師入道ノ許ヘ行向テ被申ケルハ法皇ヲ鳥羽ノ御所ニ移シ入オハスナルハ何如ナル御咎ノ御座候ヤランシ一日承シ御憤ノ末ハレサセ給ハヌニヤ人一人モ不付進ト承ハ想像進テ心苦ク覺侍ルニ蒙御免叅テ御徒然ヲモ慰メ進ハヤト被申タリ此法印ハウヲハシキ人濁レル世ヲモ澄シ事アヤマルマシキ者ナレハ何カ若カラント被免ケリ法印悦デ宿坊ヘモ歸ラズ聽テ鳥羽殿ヘ参給ヘリ法皇ハ御經高ヲカニ遊メ御前ニハ人モ候ハス法印急キ音ナヒテ参タリケルヲ叡覧有テ強ニウレシゲニ覺シツヽアレハイカニト仰モハテズハラ〱トコボルヽ御涙ハ御經ノ上ニツ懸ケル法印モ御有様ヲ見進テ御心中サコソハト忝ク覺ケレハヤカテ

裘ノ袖ヲ顔ニアテヽ音モ惜ズ泣給ヒモ臥沈タリケ
ルカ法印被レ參タリケルニカ付テ起アカリ泣々申ケル
ハ昨日ノ朝七條殿ニテ貢御進タリシ外ハ比モ今朝モ
御熟米ヲダニモ御覧シ入サセ給ハズ永キ夜スカラ御
寢モナラス御歎ノ三御心苦タニ渡セ御座セバナガラ
ヘサセ給ハシ事モイカヽト覺ルトテ又サメ〳〵トナカ
レケリ法印心ヲ定メテ申サレケル此事更ニ歎思召ベ
カラズ平家ハノ凡人ト申ナガラ家ヲ興シ世ヲ取テ天
下ヲ我儘ニメ二十餘年ノ榮耀ニホコルトイヘ共何事
モ限アリ彼等ハ臣下也君ハ國主ニ御座忝モ御裳濯川
ノ御末百王億載ノ御ユツリヲ受サセ給ヘリ草木風ニ
靡キテ枝全ク萬物地ニ依テ生長ス非情メ心ナキ猶以

如レ此況人臣トシテ朝家ヲ嘲在レ下上ヲ蔑ニセン事イザ
〳〵例多トイヘドモ素懷ヲトケタル者ナシ遠ハ三年ヲ
過ズ只今天ノ責ヲ蒙ナンズ是ハ偏ニ天魔入道ニ入替
テ其家ノ正ニ亡ンズル也御歎ニ及バス只今コソ角渡
ラセ給トモ伊勢太神宮八幡大菩薩殊ニハ君ノ憑三思
召ル、山王七社兩所三聖ヨモ捨杲進セ給ハシ災妖不レ
勝善政夢怪不レ勝善行ト申事侍バ只先非ヲ悔サセ給ヒ
人民ニ恵ヲ施シ政務ニ私アラントト思召サバ天下ハ
忽ニ君ノ御代ニ立返惡徒ハ必水ノ泡ト消失ン事疑ナ
シ御心ヅヨク思召ヘシトテ貢御勸メ被レ申ケレバイサ
ヽカ慰ム御心地ノ御湯ツケ少聞召入ラレケリ尼ゼモ
カ付テ覺エケリ此尼セト申ハ法皇ノ御母儀待賢門院

ノ御妹上西門院ニモ候ハレケルカ品イミシキ人ニテハ無リケレドモ心操サカ〳〵シキ上一生不犯ノ女房ニテオハシケレハ清キ者也トテ法皇モ幼稚ノ御時ヨリ近ク召仕ハセマシ〳〵ケレハ臣下モ君ノ御氣色ニ依テ兄御前トハカシヅキヨバヽレケルヲ法皇ハタヾ尼セトゾ仰ケル鳥羽殿ニ唯一人付進セテ候ケリ君舟臣水々治レ浪舟能浮レ水湛レ波舟又覆ト云事アリ太政入道保元平治両度ノ合戦ニハ御方ニテ凶徒ヲ退テ君ヲ助奉リキ水波ヲ治メヨク舟ヲ浮タリ治承ノ今ハ勲功ノ威ニ誇テ君ヲ褊シ奉ル水波ヲ湛テ舟ヲ覆ス憂アリ貞観政要ノ文實也トゾ覺タル

洲濱殿 離宮ノ旧跡ノ辺ニアリ新大納言成親卿ノ別莊也

成親卿ノ事ハ平家物語ニ委シクアリ

追分 自是左田中ノ路ヲ行ハ竹田ヲ経テ伏見ヘモ深草ヘモ行路也

竹田 但竹田トハ郷名ニテ鳥羽ノ南ナリ

詞花 [illegible] よみ人しらず

玉葉 [illegible] 坂上郎女

續千載 [illegible]

堀川百首 [illegible]

夫木　[illegible]竹田の原に[illegible]　中務卿[illegible]

深き[illegible]竹田の原[illegible]暁[illegible]

安樂壽院　竹田ノ内鳥羽村ニ在シ

東西ニ門アリ丹ヲ以テ塗之故ニ土人寺ノ名ヲ不謂シテ直ニ朱門(アカ)ト云本御堂ハ東ニ向フ本尊ハ弥陀也是春ノ作也ト鳥羽法皇此所ニ於テ崩シ玉フ則本尊ノ臺座ノ下ニ葬ル新御堂向東八条ノ女院ヲ葬其下ニ傍ニ有堂中ハ地蔵ノ像アリ左ノ壇本尊不動ハ覚鑁ノ作也右ノ脇ニ弘法大師ノ像アリ右壇ニ鳥羽院ノ法皇ノ宸影也左ニ八条女院之影右ニ美福門院ノ御影アリ此寺新義ノ真言宗ニメ坊舎十二所アリ其内六坊ハ勤本御塔之結番此六坊ハ鳥羽法皇ノ離宮ニ入玉フ時六人ノ淨侶ヲ伴フ皆老年ノ近臣ニテ而テ剃髪ノ人ト也今多クハ其裔也又六坊ハ六淨侶ニ准シテ而置之令勤ニ新御堂之結番ヲ後奈良院ノ御宇ニ寄附ノ庄園所々ニアリ今寺産纔ニ五百石也

不動院　竹田ニアリ　此院或ハ上菩提院ト称ス

本尊不動明王ハ慈覚之所作也淨土宗之僧守之昔ハ安樂壽院ノ一院也

西行寺　在竹田　本尊ノ地蔵ハ行基ノ作ル所アリ今淨土宗ノ僧守之西行法師暫ク此処ニ住ス當寺ノ庭月見(ツキミ)ノ池アリ

府志曰見月池ニ竹田ノ安樂壽院ノ西南西行寺之中ニアリ傳云西行法師此寺ニ栖テ月ヲ此池水辺ニ見ル

ト云トニし

國分寺

竹田ニアリ本尊ハ弥陀ナリ堂楣ニ國分寺ノ旧額アリ端ニ元暦元年仲秋吉辰之字アリ其下ニ方印アリ其字不分明諍土宗ノ僧守之古六十六州ニ州毎ニ國分寺アリ聖武帝勅シテ東大寺ヲ以テ為ニ日本惣国分寺ト

九品寺

在ニ竹田ニ本尊弥陀也　鳥羽法皇搆ニ城南離宮ヲ時此辺所々ニ九箇ノ寺院ヲ建テ被レ準ニ擬九品諍土ニ此寺モ亦為ニ九所之随一ハ所ハ絶テ此寺一宇残レリ今此一寺ヲサシテ専ラ號ニ九品寺ト関東檀林円通寺之流

苻川

竹田ト伏見ノ間ニアリ名所ナリ當国ニ両所アリ一所ハ此所今一所ハ嵯峨ニアリ

読人しらず　菅さ多しと名に立てられ苻川の竹田のさとに流れまじ(?)

詠み人しらず　いかにしてかはる川に流れ給ひけむ菅はらのはやし(?)

府志曰苻川祩サノ西ニアリ　仁明帝苻川ニ行幸于時昭宣公為ニ少年ニ然ル共供奉ノ列ニアリ　仁明帝御愛ノ琴ノ爪ヲ落シ給フ是ヲ惜ミ給フ叓甚シ帝左右ヲ顧給テ公ニ命シテ覓ム之公奉リ命ヲ原野ニ不覓之心ニ三寶ヲ念ス誓曰吾若シ不レ辱レ命ヲ就ニ得レ爪所ニ創ニ一精舎ヲ三寶之徳ヲ酬ントト暴ノ祩サニ於テ得之。遂ニ造ル極樂寺ヲ今ハ日蓮宗ノ寶塔寺則極樂寺也此地極樂寺村ト称ス

課十　藤森　稲荷ノ辺ニ會
伏見墨染ノ井ノ辺ニ會ス

秋山　上鳥羽ノ内路ヨリ左ノ路畔ノ田中ニ在
小井田橋ヨリ到テ此凡三町許ナリ茶
店アリ

府志曰秋山ハ上鳥羽ノ南ニアリ曽テ鳥羽ノ法皇ノ離宮ヲ此所ニ設ケ給フ東庭ニハ築山花木ヲ栽テ春光ヲ愛シ西庭ニハ楓樹ヲ栽テ秋色ヲ賞ス南方ハ避暑北方ハ見雪各其趣アリ今悉ク田疇トナリ秋山纔ニ残レリ其麓ニ寺アリ浄土専念宗ノ僧守之

文保百首哥奉りし時　後光

続後拾遺　夜をこめ鳥羽田乃里[illegible]秋乃山風

百首哥奉りしとき　秋田

新拾遺　[illegible]鳥羽田[illegible]寺[illegible]秋の山風

題不知

□　[illegible]鳥羽田[illegible]秋の山風

百首哥奉りける時　秋田

等持院贈左大臣

新拾遺　[illegible]秋乃山[illegible]鳥羽田[illegible]稲[illegible]

[illegible]鳥羽田乃[illegible]秋の山里　家隆

武書ていふ秋山ハ洛東丸ゟ拜丸里ノ東しけれ
ありしゝし
太平記ニ曰元弘三年三月十一日赤松円心三千餘騎ヲ
卒メ京都ヲ攻ン為ニ上洛シテ桂川ノ西ノ岸ニ陣ス六
波羅勢ハ河向ヨリ鳥羽秋山ニ家々ノ旗翩翻シテ城南
ノ離宮ノ西門ヨリ造道四塚羅生門ノ東西西七條マテ
支ヘタリ赤松カ三男律師則祐桂川ヲ渡サントセシヲ
父ノ円心制シケレハ曰兵則祐カ曰兵道ノ詞ニ兵制之術宜ニ
察ニ敵人之機ヲ而速ニ乗ニ其利ニ疾ク撃ニ其不意イハリ是吾カ
以ニ困兵ヲ敗ニ敵強陣ヲ謀ニテ候ドヲ雪消ノ水ニ水カサマサリ
譲テ落ハ桂川ニ只一人カケ入ケレハ円心ヲ始三千餘騎ノ兵
一同ニトノト渡シテ六波羅勢ヲ追立トゝく

壇上（ノウヘ） 自路左上鳥羽下鳥羽ノ間ナリ

府志ニ曰壇ノ上ハ鳥羽上下ノ間ニアリ古ヘ此所ニ有ニ真言宗ノ寺一鳥羽院ノ勅願寺ノ為ナリ故ニ住僧ハ護持僧トシテ常ニ護摩ヲ壇上ニ修而寶祚ノ長久ヲ祈奉ル故ニ土人壇ノ上ト称ス斯僧牛車ヲ許ル故ニ駕車牛常ニ在ニ門前ニ于時人或ハ假之駕車自然後土人別ニ飼ニ牛ヲ駕車ス其價ヲ定メ假人而使乗之尓後運漕米穀薪炭如今自ニ上下鳥羽ニ至ニ此所ニ有ニ車八十両餘ニトソ

戀塚寺　壇上ニアリ

府志曰浄土宗ニソ知恩院ニ属ス文覺上人始遠藤盛遠ト号ス夜中ニ誤テ斬源渡妻首ヲ此処ニ葬来見之大ニ悔愧テ則首ヲ此所ニ埋ミ剃髪シ為ル僧自文覚ト称ス其後寺ヲ建テ戀塚寺ト号ス義婦ノ塔今猶存ス然与近世誤テ碑ヲ上鳥羽ニ建ツ上鳥羽ノハ鯉塚也戀与鯉互ニ誤之　私云鯉塚ノ吏前ニ記之但少不審首ト骸ト両所欤

羅山子ノ戀塚碑文曰

鳥羽戀塚者文覺為源渡妻所築也初藤盛遠聘ニ彼婦ニ而無道劫婦之母為媒徑母呼而告之婦念フ不聴則殺母不孝聴則棄夫不義噫不孝不義吾生不如ニ死ナン欲以身當之乃佯諾曰請ヘ失ニ吾夫而後可ニ以テ従也一夕在閨新沐而卧者即是矣我開戸而待之盛遠紿去婦還設酒與ニ源渡相献酬使ム卧ニ於奥ニ婦自沐卧閨夜闌盛遠果到斷頭持去黎明視之婦之首也盛遠甚哀帰為僧所謂文覺是也其後在高雄遂望埋婦之處名曰戀塚世俗所傳益如此

嗚呼婦孝于母ニ義于夫篤節其身雖大夫不過此也長安大昌里之節女同日談乎秦之懷清臺以貨准之漂母墓以恩胡地之青塚以怨何足比之哉曹娥之孝漂母女之貞其碑其名古今不泯此婦之名亦然乎彼之戀之在色耶在節不可不擇也浮屠之在塔銘猶如碑碣也

銘曰

呼節婦兮　惟孝惟義　石可泯兮　貞名不已

寛永十七年

日向守大江姓ニ永井氏直清立

往歳賜長岡以為我采邑其所隷之鳥羽里有戀塚古蹟有名而無表尋其所由而知文覺發意聞節女之孝義不可以無表也於是刻石塔ヲ築エ聊記ニ所傳聞以垂ルニ于不朽ニ云

右裏書之案

慶安元年戊子三月八日立之

日向守大江姓ニ永井氏直清

ト云々

下鳥羽邑

横打邑　是下鳥羽ノ内也　横大路也　今里俗誤テ横打ト云ハ非也

地蔵堂　通町ノ内ニアリ

同町中ノ左ノ側ヨリ入小衢アリ是ハ戀塚寺ヘ行路也路畔ニ石碑アリ　こひ塚ちうト云々

常高寺　下鳥ニアリ

是ハ京極佐々木前參議兼若狭守之室家ヲ常光院

松岩栄昌ト云 浅井備前守長政ノ女也 存日立此寺ト云々

法傳寺 下ノ南ニアリ

寺僧傳云 後鳥羽院ノ妃芥搞ノ后ノ守本尊ノ地蔵菩薩ヲ安置ス 元ハ真言宗 當時ハ浄土宗 法然上人十一世ノ法孫智円上人此寺ニ住シテ法ヲ改阿弥陀ヲ本尊トシテ 傍ニ薬師ノ像ヲ安ス 此像ハ行基菩薩ノ作ナリ 元ハ鳥羽殿ニアリトミく 芥川ノ戒徳寺モ此寺ノ末流也

羽束師社

神社アリ 号ニ羽束石大明神ト 下鳥羽ノ西南ニアリ 延喜式神名記曰 山城国 羽束師神社 是ハ高御彦日ノ神トミく

後撰 [illegible] よミ人しられ

金葉 [illegible]

續拾遺 [illegible]

或紀行 [illegible] 古河村 [illegible]

冨田庄村　自路左ニアリ

一念寺　在二下鳥羽一　當寺ハ後村上院皇子僧真阿弥開基也

真阿弥ハ初洛陽ノ十念寺ヲ建テ住之臨ニ遷化ニ前徒弟ニ示テ此前ノ川ニ水葬ス其所ヲ真ハ阿弥淵ト云淵ノ辺南北四町ヲ限リ殺生ヲ禁ス堂ニハ阿弥陀ノ大像アリ春日作アリ　私曰　春日トハ佛工ノ名也非神

黄葉集に いはく [illegible]

[illegible]

大初之光寺 [illegible]

紅葉 [illegible]

塔社村
自路右久我畷ノ方ニアリ

久我村
久我畷モ同所也 自路右ノ方ナリ

或書曰久我畷ハ下鳥羽ノ西久我渡ヲ渉リ久我村ニ到ル
自是西南山崎ノ一条路ニ赴ク是久我畷ナリ
嘉元三年七月内大臣通基公有故被レ膺城南ニ蟄居
故ニ久我殿ト云 平貞時乱ニ無罪趣ヲ執奏ス 帝驚許

久我明神
下鳥羽ヨリ西ナリ

延喜式神名記山城國乙訓郡久我神社ト云々 未タ知ラ祭ルトモ何レノ神ヲ
太平記曰元弘三年七月七日合戦ニ久我畷ニテ名越尾張
赤松ヵ軍将佐用左衛門三郎範家ト云者田ノ畔ノ藪ノ隣
ヨリ近付テ射之其矢尾張守ノ甲ノ真甲ニ中テ則時ニ
死スト云々

岩倉村
久我村ノ西ニアリ

賀茂川村
岩倉村ノツキノ南ノ方ニアリ

志水村
賀茂川村ノツヽキ

右三ヶ村ハ通路ヨリ右ニ見ユル

古河村
下鳥羽ノ西ニアリ

古ヘハ西国遷謫ノ人多クハ自此川ニ乗船出孤川ニ
菅神モ自吉祥院此所ニ到リ給テ乗船シ給フト云々

自此辺故郷方ヲ御覧シテ ミカヘリノ森古河ノ辺ニアリ ナトミユル

あはれ入日のこゝろ代りてくもゐにかへらぬみをそしうらみつゝなや

又此古川ノ辺ニ京船所ヲ草津ト云 今ハ其名ナシ

治承四年三月高倉院安藝國嚴嶋御幸ノ時鳥羽ノ

草津ヨリ御舟ニ召サル

岩清水ニ幸纜ありとく

赤井河原 下鳥羽ノ西ニアリ

府志曰下鳥羽ノ西南ニアリ元弘年中千種頭中将

忠顕淀ノ大渡ヲ渡シテ屯ニ赤井河原ニ自茲向京軍云々

太平記ニ委シ

淀ノ納所町 淀城下ノツヽキ也

[illegible]

太平記ニ曰

[illegible]、大渡ヲ渡リテ已ニ赤井河原ヘ[illegible]

[illegible]下鳥羽ノ西南ニアリ[illegible]

赤井河原 下鳥羽ノ西ニアリ

内務省文庫印

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan